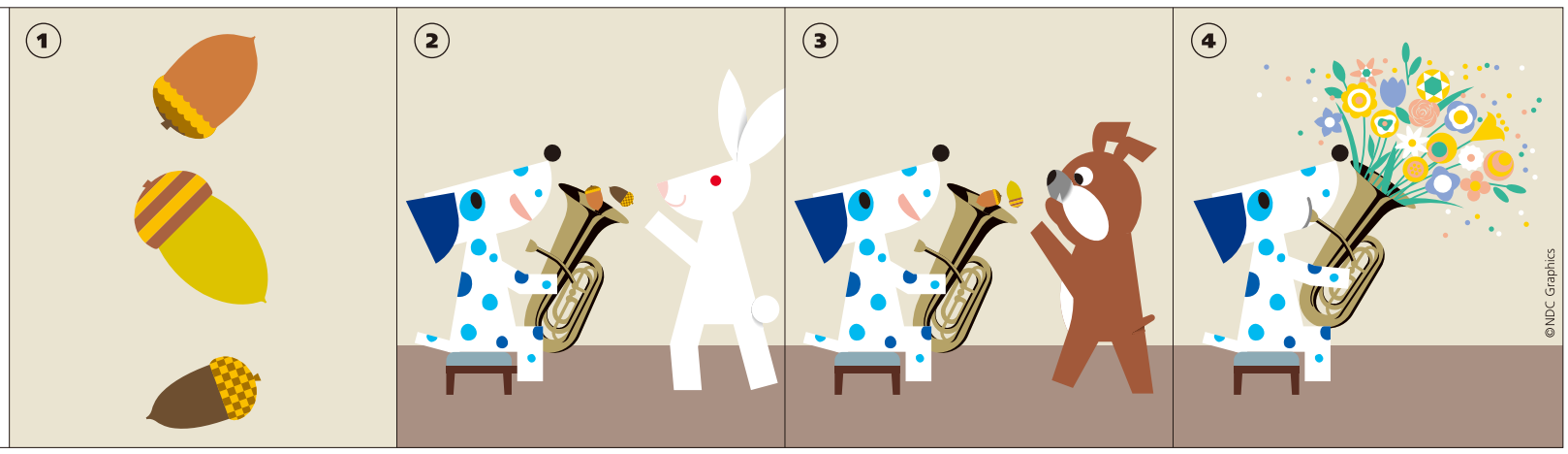
神奈フィル ブルーダル サポーターズ

「感動の種まき」
心に豊かな花を咲かそう



ブルーダルは神奈フィルの応援マスコットです。

2015年6月28日発行
発行・企画編集＝神奈川フィルハーモニー管弦楽団事務局
発行人・編集人＝大石修治
231-0004 横浜市中区元浜町2-13東照ビル3階
電話 045-226-5045

Prelude

2015 6|28 日

Published by KANAGAWA PHILHARMONIC ORCHESTRA © 2015

インタビュー
神奈川フィルハーモニー管弦楽団
ソロ・コンサートマスター 石田泰尚
第1コンサートマスター 崎谷直人

神奈川フィルの音楽はよくなったねって、誰よりも観客の皆さんに言われたいですね。

おふたりは神奈川フィルのコンサートマスターとして活躍中ですが、はじめに新常任指揮者 川瀬さん率いる神奈川フィルの印象はいかがですか?

[**石田** 写真左]僕は今年度から15年目に入りますが、神奈川フィルが繊細な音色のオーケストラだという印象は当初からずっと変わっていませんね。

[**崎谷** 写真右]特に古典が素晴らしいですよね。それにいろいろなパターンに対応できる楽団だと思います。大きい曲から小さい曲までさまざまなカラーがあって面白いです。

[**石田**]川瀬くんとは、彼がプロデビューをしたときも一緒に演奏しましたが、とにかくレベルが違う音楽家が出てきた!と嬉しくなったのを覚えています。彼はやりたいことが明確なのでとてもやりやすい。そして何より演奏者をその気にさせる「弾かせ上手」。勝手にひとりで盛り上がるのではなく、みんなと一緒に盛り上がれる。それは彼の人間性もあるでしょう。素晴らしいです。

[**崎谷**]石田さんと同感です。他愛もない話から真剣に音楽の話もできるので、同世代のマエストロはありがたいです。

話題を少し変えますが、おふたりが音楽の道に入ったきっかけを教えてください。

[**石田**]僕は2.3歳のころ、テレビから流れてくる音楽にリズムをとっていたらしいです。それを見た両親が、近所のヴァイオリン教室に通わせたのがきっかけです。でもプロになろうと思ったのは、ずっと後のこと。実はヴァイオリンは趣味でやろうと思っていました。高校は付属の男子校で大学も推薦で決まっていましたし…。ところが高3の秋、大学見学にいったときに頭の中が疑問符だらけになった。ここで何をするんだろう…と。そこからあわてて音大受験の勉強をしました。無事入学したら、9割が女子だった。ちょっと弾けたりすると、ちやほやされるわけです。少し天狗になっていた大学4年の時、ある教授に言われました。「お前みたいなヤツは世の中にゴマンといる。現状に満足するんじゃない」それでハッとした。

[**崎谷**]僕は変な子だったらしいです。公園に行っても人となじめない。だから幼稚園に行く前に、人に慣れさせるために両親がエレクトーン教室に通わせました。音楽にあわせて好きな楽器演奏の真似をする、という授業があって、父が段ボールでヴァイオリンを作ってくれたのです。それがきっかけです。僕の場合は音楽一筋でやってきて、12歳のときにはコンチェルトを弾いていました。そして15歳でドイツに留学しました。庄司紗矢香さんが同じクラスでしたね。当時は音楽が好きか嫌いかなんてわからなかったんです。やればできちゃったから…。そんなよくある早熟の子供だった。

[**石田**]もう、天才だよね。僕と全然違うね。

[**崎谷**]でも次第にひとりでやるのは何か違うな…と。指をけがして1年くらい弾けない時期があったり、先生と喧嘩したりして、立ち止まって考えるようになったんですね。それで帰国してカルテットを始めました。それからです。ヴァイオリンを弾いたり音楽をするのが楽しくなっていったのは。ここ数年の話です。

[**石田**]僕は小6まで楽譜を読めなかったからね。それまでは耳から覚える方法でした。小学校高学年でジュニアオーケストラに参加したのをきっかけに、楽譜を勉強しました。読めるようになったら、どんどん音楽が楽しくなっていきましたね。ただ大学入学のころは、コンサートマスターなんてどういう人がなれるのかわからない、そんなレベル。ところが矢部達哉さんが22歳でコンサートマスターに就任して、学生だった僕は「ああこんなに若くてもなれるんだ…」と。そして大学4年の秋、新星日本交響楽団からコンサートマスターの横で弾いてもらえますか、と連絡があって…。僕でいいのかとまどいましたが、自分にもチャンスがあるならがんばろう…と思ったのです。

おふたりともまったく違う道を歩んできたのですね。

[**崎谷**]そうですね。僕はある時期、運動神経だけで弾いてしまっていました。自分の演奏がわからなくなっていたころ、めぐりあったのがパリ管弦楽団のコンサートマスター ロラン・ドガレイユでした。彼の演奏を聴いて、コンサートマスターってこんなにすごい人がなるんだって衝撃を受けました。

一般の方にコンサートマスターを説明するとしたら、どんな役割の人でしょうか?

[**石田**]僕が目指しているのは、指揮者の音楽性をいちばん近い席でいちばん早く感じとって、音や体で伝えていく。そういう人ですね。さらにオーケストラは舞台の隅々にわたって演奏者がいるわけです。後ろにいればいるほど距離があるので演奏しにくかったりするのだけれど、それをストレスなく気持ちよく演奏できるようにするのが、大切な仕事だと思っています。そのためには、普段のコミュニケーションが大切です。

[**崎谷**]ほかの演奏者との呼吸のタイミングや、自分のやりたいことと指揮者の考えていること、そのバランスのとりかたが、最近少しずつわかってきたような気がします。

子供向けコンサートなど、地域の活動についてはいかがですか?

[**石田**]オーケストラにとって地域の活動は非常に大切。これからもなるべく参加していきたいと思っています。子供たち向けの公演は体育館でやることが多いのですが、ホールでやっているのと同じように、常に全力で子供たちに音楽を聴かせたい。

[**崎谷**]同感ですね。子供たちへ無理に興味を持たせるのではなく、音楽に触れるきっかけを与えてあげたい。聴く機会さえないと、音楽を知らずに大きくなり、そのうち聴衆もいなくなってしまいますから。これは子供たちのためだけでなく、自分たちのためでもあるわけです。それが半永久的に繰り返されないと、文化として継承されていかないと思います。

最後にお互いの印象をお聞かせください。

[**崎谷**]石田さんの隣で弾いていると、驚くことがたくさんあります。さまざまな音を聴いているし、他のパートの音もちゃんと知っている。なかなか直接言う機会がないけれど…とにかくすごい人です。

[**石田**]崎谷くんの音は、とにかく綺麗。繊細で美しい。だからこれからも、一緒に刺激しあっていい音楽をつくっていきたいですね。

これからの演奏がますます楽しみです。ありがとうございました。

インタビュアー：事務局広報 田賀浩一朗

定期演奏会 音楽堂シリーズ 第5回
7|4 土 15:00 神奈川県立音楽堂
◉ 指揮＝広上淳一　◉ ヴァイオリン＝石田泰尚
◉ チェロ＝門脇大樹　◉ オーボエ＝古山真里江
◉ ファゴット＝鈴木一成
♬ 細川俊夫／冥想（日本初演）
♬ ハイドン／協奏交響曲　♬ 交響曲第100番「軍隊」
料金：（全席指定）S¥4,000　A¥2,500　~~B¥1,000~~ 完売

定期演奏会 みなとみらいシリーズ 第311回
7|10 金 19:00 横浜みなとみらいホール
◉ 指揮＝川瀬賢太郎
♬ ドヴォルザーク／交響曲第9番「新世界より」
♬ アイヴズ／交響曲第2番
料金：（全席指定）
S¥6,000　A¥4,500　B¥3,000

レクチャー・コンサート「モーツァルトの魅力を旅する」
7|14 火 14:00 神奈川県民ホール 小ホール
◉ 指揮＝伊藤翔
◉ ピアノ・お話＝久元祐子
♬ モーツァルト／交響曲第29番より第1.4楽章
♬ モーツァルト／ピアノ協奏曲第23番
料金：（全席指定）¥3,000
※来場者にプレゼントあり

定期演奏会 県民ホールシリーズ 第5回
9|12 土 15:00 神奈川県民ホール
◉ 指揮＝小泉和裕　◉ ピアノ＝清水和音
♬ ベートーヴェン／ピアノ協奏曲第5番「皇帝」
♬ ブラームス／交響曲第4番
料金：（全席指定）
S¥6,000　A¥4,000　B¥2,000

※未就学児童のご入場はご遠慮ください。